

連載 第23回 『試聴室探訪記』
 ～谷口とものり、魅惑のパノラマ写真の世界～

T氏のオーディオ&ホームシアタールーム訪問
 フォトグラファー 谷口 とものり・編集委員 森 芳久



今回の試聴室探訪は、中野区の高級マンションにお住まいのT氏のリスニングルーム／ホームシアターを訪ねました。新宿の高層ビル群をはじめ都内が一望できる眺望に恵まれたこの部屋で、存分に好きな音楽やホームシアターを楽しむため、建築当初よりそのための部屋を作ること考えられていたというT氏。いくら恵まれた高級住宅とはいえ音響的にいろいろな制約を受けるマンション、氏の満足する環境を整えるためにその設計依頼先が石井さんになったのは必然でしょう。今回も石井式音響処理法が駆使され、リビングルームとしての快適さを保ちながらとてもバランスの取れた素晴らしい音が心地よく響いていました。また、天井に組込まれたスクリーン（オーエスプラスe製140インチ）を下ろせばホームシアターに早変わり、ソニーの4K“SXR”搭載プロジェクターとパナソニックのブルーレイディスクレコーダーによる4K映像の世界が楽しめます。氏はここで、毎日2～3時間をホームシアターとピュアオーディオをほぼ半々に楽しんでいるとのことですが、確かにこの心地良い部屋で質の高い音楽や映像を見ると、あっという間に2～3時間の時間が過ぎてしまいます。ジャズではホリー・コールやダイアナ・クラールなどのボーカルそしてクラシックではピアノコンチェルトがお好きとのことでしたが、確かにボーカルの定位、そして余韻は素晴らしいものでした。

また氏は、モノラルのアナログレコードをオイルダンパームで再生された大学時代よりオーディオを趣味としてこられ、今日もSA-CDやCDに加えアナログレコードの演奏比率は30%とアナログレコード愛好家でもあります。アナログプレーヤーにDr. Feickert Analogueの

Woodpecker、トーンアームには IKEDA、カートリッジには jan allearts を使われていることから、かなりの筋金入りと拝察いたしました。またこのパノラマ映像では見えませんが、実はこのラックの奥には Dan Dagostino の大型パワーアンプがセットされているのです。そしてこのラックは後ろにはバックルームがあり、配線などは全て裏側で簡単に差し替え出来る構造となっています。電源も十分配慮され、全オーディオ装置のためにブレーカーのところからオヤイデの電源ケーブルで専用線を引き込み、さらにアキュフェーズのクリーン電源 PS-520 がその名の通り電源をクリーンに見守っています。

今回も部屋についての詳細を石井さんに解説していただきましたので、そちらをご参照されながら、いつもの谷口さんの素晴らしいパノラマ映像をお楽しみください。

尚、リアスピーカーには Acustik-Lab の Bolero が使われています。

T 氏邸リスニングルームの設計について

石井伸一郎

今回の T 氏宅の例は分譲マンションのリビング部分をリスニングルームにしたものであるが、ダイニングルームに接していて部屋の平面形が L 字形状になっている。

オーナーの T 氏はこの家に越す前にもやはりマンションのリビングルームでオーディオを楽しんでいたので一度お邪魔して打ち合わせをしたが、B&W 802 を用いた装置は真空管アンプと半導体アンプをソフトによって切り替えてドライブして楽しむという非常に凝ったシステムであった。これだけの装置の性能を発揮するためには本格的な専用室が欲しいところであるが、このような環境で良い音のオーディオルームを如何にして構成するかの特ケースになると設計を引き受けることにした。

オーナーから拡散調音パネルを全面に配置する提案を頂いていたが、全体の構成は全帯域反射全帯域吸音の通称石井式で行くことにした。問題は如何に吸音部を確保するかにかかっているが、部屋の左側のベランダに面した大きなガラス窓、右側のピアノ設置部と作り付けの機器類ラック、収納室扉、キッチンのドアなどどうしても変更や移動が不可能な部分があるため、吸音部の配置ができる壁面が非常に少ないという問題があった。そこで正面の壁に 3 箇所と、ピアノ部の壁面とキッチン部の壁面に吸音部を設けることにした。天井はリビング部分に 3 箇所とダイニング部に 1 箇所設けることにした。

部屋の長さはダイニング部があるので 8m とかなり大きな値になっていて、幅は約 4.2m、天井高さは吸音層を設けたために 2.25m になっている。リスニングポイントは全体の中心より少し前なので、天井の低い部屋で発生する低域の大きな谷を避けることができた。またそのとき出来たばかりの非直方体室のシミュレーションができるソフトを用いて検討してみると伝送特性は、片チャンネルはかなり良いことが分かった。

T 氏は映像付のソフトも楽しめるのでスクリーンを設けることになっていたが、筆者宅の経験からスピーカーの前面に部屋の幅一杯にサウンドスクリーンを取り付けることを提案して採用されたがこれは完成後非常に喜んで頂いた。この形は今後のリスニングルームのスタンダードになるものと思われる。

改装工事は標準仕様で完成したものを引き取ってから行うことになっていたので引き取り時に部屋を見たが音響処理を全くしていないため、響きが多くオーナーの T 氏はこれで本当に良い音の部屋になるのか危惧したそうである。

施工はパナソニック電工が行ったが、これは奥様と T 氏がキッチン関係の相談にショールームに来られた際に、隣にあったホームシアターをご覧になってリビング部分の改装について相談があり、同社のホームシアター担当者がオーディオ協会のデジタルホームシアター普及委員会の委員をされていた関係で、筆者に設計を依頼したという経緯があった。筆者は委員会の非常に貴重な実例になるとお引き受けをしたのである。

改装が済んで音響特性を測定してみると左チャンネルの伝送特性が良いことが分かった。音響機器を設置して伝送特性を測定してみると、左チャンネルの特性が非常に良い特性でこれほど良い特性は本格的に設計したもので中々得がたい特性であった。右チャンネルには凹凸が有るが左右同時に鳴れば平均化されるのでかなりのグレードの再生音が期待できると思われた。

筆者は「現在リスニングルームの音響学」(誠文堂新光社刊)の改定増補版の執筆中であるが、この中に石井式の壁面の一部を切り取って吸音パネルとしたものについて最新の研究結果を用いて解説しているが、これによると石井式の吸音構造は非常に効率よく低域を吸音することが分かった。特に今回の例のように吸音部が非常に少ない場合には低音域を非常に効率的に吸音することが分かったが、それをうまく取り入れた形になっているのである。これからマンションのリビングルームで本格的なオーディオを始めたいという方の参考になれば幸いである。

図1 T 氏邸 B&W802 の特性
左チャンネルの特性が非常に良いのに注意して頂きたい。

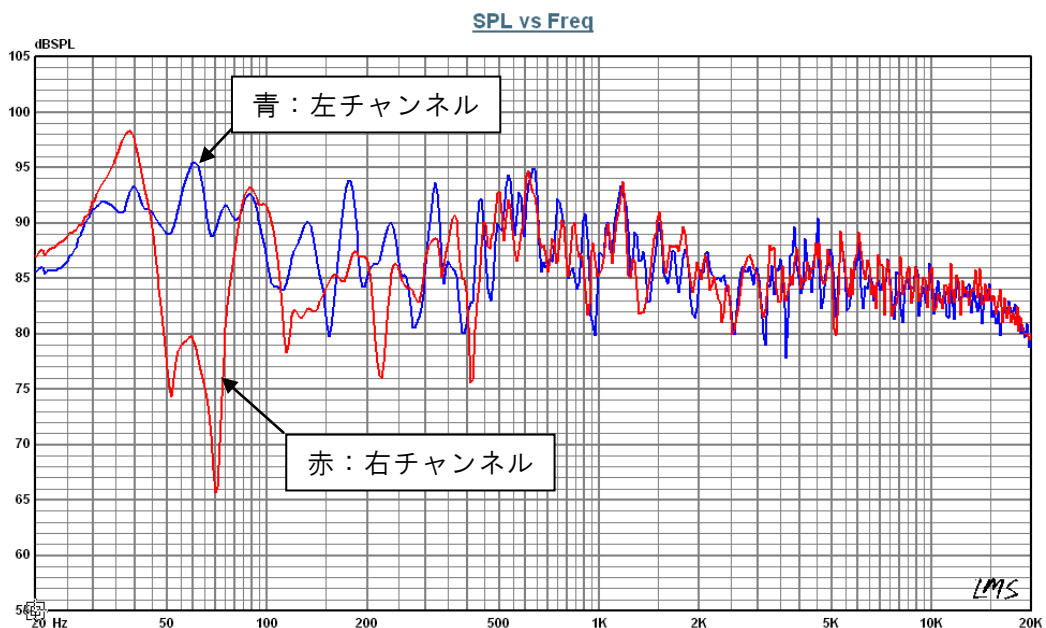
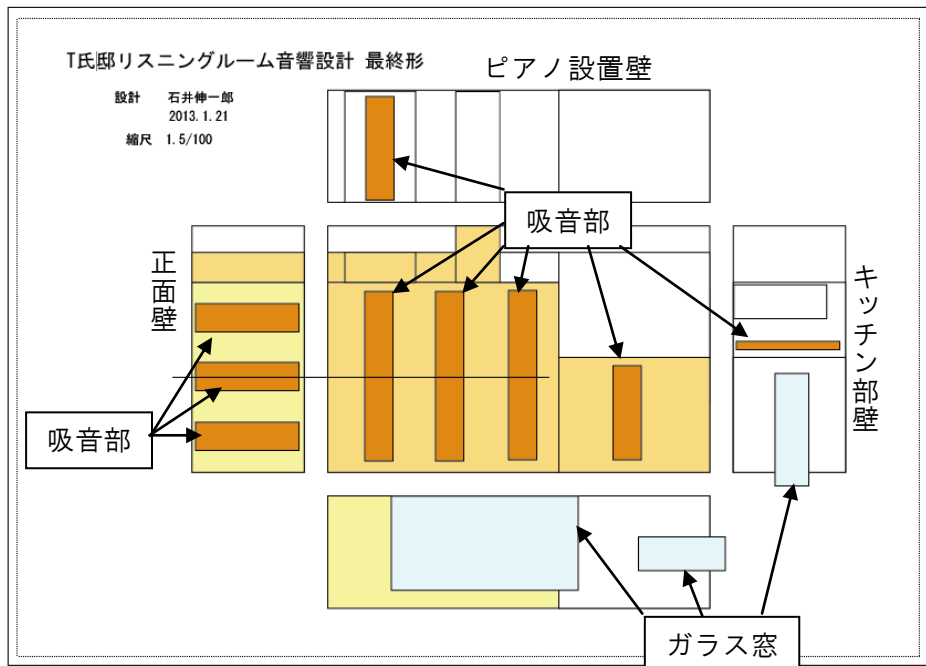


図2 T氏邸リスニングルームの図面



パノラマ画像の操作説明

- パノラマ写真は、[ここ](#)か、はじめのページの**画像**をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。
 - + 画面のズームイン
 - 画面のズームアウト
 - ← 画面の左移動
 - 画面の右移動
 - ↑ 画面の上方向への移動
 - ↓ 画面の下方向への移動
- 尚、カーソルを画面のオーディオ機器に当てると機種名が表示されます。